



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話 099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



教区財政の慢性的赤字解消へ向けて

作業部会の設置を承認

教区経済問題評議会

鹿兒島教区経済問題評議会が五月三十日(土) 教区本部で開かれ、教区会計の二〇〇八年度決算と二〇〇九年度予算を承認した。

二〇〇八年度決算では九百六十八万四千四百三十六円に上り、二〇〇七年度もほぼ同額の募金が集まった。しかし、二〇〇九年度予算の次年度繰越金は三百九十五万四千三百六十七円になり二〇〇八年度より約五百万円減になる。すなわち

この募金がなければ二〇〇九年度から再び赤字になるとの見通しで評議員の見解は一致した。しかし、いつまでもこのような募金に頼るべきではなく財政正常化のための方策を今年度中に構築すべきであるとの意見でも一致を見せた。こ

の問題に対する具体案として、(田)教区費、地区費の配分比率の見直し、(月)小教区維持費の定額制の導入、などの提言がなされた。会計部からは、教区の宣教司牧体制の中・長

三教区合同黙想会

大分、那覇、鹿兒島の三教区の教区司祭合同の黙想会が、五月二十五日(月)から二十九日(金)まで霧島市のホテルで開催された。出席したのは、三教区からの司祭、司祭と助祭の

期ビジョンの策定の必要性和「鹿兒島教区財政正常化計画書」(一九七七年五月/二〇〇〇年七月一部改正)の見直しの必要性が提言された。評議会は、これらの提言を査証していく作業部会の設置を決め、この作業部会が九月開催の経済問題評議会に提言を行うことになった。この作業部会は川口茂評議員を中心に構成され、毎月一回、検討作業をすることになった。

ベネディクト十六世教皇は六月十九日から来年の六月十九日までの一年間を「司祭年」とすることを発表なさいました。直接的にはアルスの聖なる司祭「聖ヨハネ・マリア・ビアンネの没後百五十周年」という契機ですが、実際には世俗

リストと司祭職への忠実」となっています。教皇の着眼点は司祭の霊的完成を促すことにあるようです。具体的には「(司祭の) 信仰の判断、個人の美徳あるいは服装を通じても文化と愛のわざの領域のうちに存在

十二使徒たちの後継者としての性格と使命を明確にしました。位階制度を、初代教会時代のあるべき姿に近づけたと思います。しかし、一方司祭職については終身助祭制度や信徒の典礼奉仕職への参与などが進めら

新風

司祭年に寄せて

化の進んだ現代社会において教会内外で孤軍奮闘している司祭方の現状を今一度神の民全体で見直すべき好機なのではないかと思えます。司祭各自が召された司祭職を喜びを持って果たしていく姿こそ若者にとって魅力となるわけで、教会の未来にもかかわる話だとも思います。

し、認められ、優れた者になろうとする自覚を司祭にあらためて抱かせることが緊急の務めである」と司祭年の宣言で述べています。

第二バチカン公会議は司教職について考察を深め、教会の礎であるも、有効な自己研鑽や研修の機会も見出せないで、あきらめの気持ちを引きずりながらの教会生活ではないかと思えます。この一年、教会生活の中で司祭の在り方を神の民全体で考えていきたいものです。(H・N)

地区財務委員会

教区司祭地区財務委員会が六月十四日(日) 教区本部で開かれ、十二の小教区から、主任司祭と小教区信徒財務委員の計十四人が集まった。

会議では地区会計の二〇〇八年度決算の承認と二〇〇九年度予算の審議と承認の後、意見交換が行われ、その中で委員から小教区聖

第18回夏期集中講座

主催/カトリック鹿兒島教区
テーマ/イエスのたとえ話
日時/8月17日(月)～21日(金)
午前の部 10時～12時
午後の部 19時～21時
場所/ザビエル教会1階ホール
講師/竹山 昭神父
受講料/1人500円(資料代)
申込/教会・修道院ごとにまとめて8月9日(日)までに教区本部「夏期集中講座」係まで

修道会便り

キリストを伝える司祭はミサをささげる時も、また人々と交わる時も霊的、知的で、健康的でという基盤を大事にしなければならぬ。そしてこれは司祭のみならず信徒、修道者にも当てはまること。聖書と聖体によって養われている者が社会では仏頂面で、つつけんどんな話し方、そして見苦しい身だしなみ...それでキリストの福音が伝わるかを反省しなければならぬとメッセージを送った。

修女連盟総会

教区修道女連盟では六月七日(日) 教区本部で今年度の総会と研修会を開いた。約七十人の修道女たちが集まった総会では、新役員の発表があり、連盟の新しい会長にシスター頭島美保子(宮崎カリタス)が就任した。その後の研修会では講師の澤田豊成神父(聖パウロ会)から「パウロの宣教の熱意」について学習した。



シスター重清美保子 五月二十四日(日) レンプトール 宣教師修女会

堂の営繕費問題について検討するよう要請があった。これは多くの小教区聖堂が献堂から三十年が経ち、教会堂の修復が必要になっているとの報告で、教区からの援助が必要とのことだった。しかし、現実問題として地区会計にはその余裕は無く、現行の小教区財務管理規定では原則として各小教区の責任で対処するように定められていることを確認し散会した。

幼稚園(カトリック学園)で幼児教育に邁進していた。

新しい祈りの方法

北薩地区宣教奉仕者(信徒使徒職)養成講座

出水教会主任司祭 大松 正弘

信仰心が薄れたと言われる大多数の日本人も正月の初詣やお盆、関係する人の葬儀などで極当たり前のこととして手を合わせて祈ります。それは神や仏を信じてる信仰心からなされるのではないのです。祈る方が誰であるか、どんな方か意識されることなくなされていくからです。祈りの目的は自分の願いや利益が与えられるようにという御利益主義のようです。「自動販売機」にコインを入れるように賽銭箱に賽銭を入れているのではないのでしょうか?それは人間中心で、人間の側からの一方通行の関わり方の様にも思えます。

もし、願いが叶ったら感謝もしますし、叶わなくとも願うことを止めたり、神仏を怨むこともないと思えます。自分の利益や願いが叶うことが現代日本人の祈りの特徴と言えます。神仏が望んでおられることには心は向かっていません。人間中心と言われる現代人の生き方がこの祈るといふ動作の中にも反映されていると言えるのではないのでしょうか?

「エンカルタ百科事典」(マイクロナソフト社)で「祈る」を検索すると『人間が神などの礼拝対象と交渉するための最も基本的な宗教行為、およびその際に使われる言葉。人は神を心から信仰する時、自然に祈りに到達する。祈りは時として個人で、あるいは集団で行われる。形式が定められた祈りもあれば、そうでない祈りもある。また言葉を出す祈りもあり、瞑想する祈りもある。祈りは様々な形で礼拝の中心的要素になっている。(中略)祈りは狭い意味では神に対して物事を要求する魂の交渉として理解されている。最も

水曜に和善の集い

すでに月曜と金曜に始められている「和善の集い」が6月24日の水曜日からも始められた。水曜日の集いは、月曜の内容を追う形で進められ「救済史」から取り組んでいる。

同集いのファシリテータ松田清四朗神父は、和善の集いではグループの成長を見ながら次第に「テーマ付き典札」「みことばの分かち合い」も導入していくことにしていると語り、ASIPA(聖書・第2バチカン公会議・FABC)が教会について何を教えているのか追求したいとしている。

広い意味では、神のような究極的存在とよりいっそう親密な関係を持つための儀礼の形態一般を指す。』とあります。広い意味の祈りは「悟りを目指す仏教の瞑想」などの豊かな祈りが日本にはあったのですが、限られた宗教伝承の中でのみ保持されています。

キリスト教の場合はどうでしょうか?デ・メロ神父様は「祈りの四段階」について述べておられます。『いつものことだが、この日も老人は教会堂に何時間も身動き一つせずに座っていた。司祭は尋ねた。「神は何を語って下さるのですか?」「神は何も語ってくれません。聞くだけです。』

「ではあなたは神に何を話しますか?」「わたしは何も話しません。聞くだけです。』

祈りには四段階がある。①わたしが語り、あなたが聞く。②あなたが語り、わたしが聞く。③双方とも語らず、双方が聞く。④双方とも語らず、双方とも聞かない―沈黙(蛙の祈り49頁)

英神父様は「祈りの箱舟」(女子パウロ会)という小さな本の中で、祈りとは『願い、共にいること、嘆き、聴くこと、安らぎ、イエスと出会うこと、思いおこすこと、感謝、毒、悔い改めること、委ね、選ぶこと、望むこと、工夫するもの、賛美、礼拝、対話、沈黙、一致など』と究極的な

シリーズ「教区財政を考える」⑧ 教区財政緊急募金をお願いした理由

教区会計 中野 裕明

教区財政が赤字だということ、二〇〇七年度から始まった「教区財政緊急募金」(本年度は名称を変更して教区財政正常化献金)は今年で三年目に入りまして。過去二年間はお陰さまで教区会計は黒字になりました。信者の皆さまに心から感謝いたします。さて、ここでいう黒字とは次年度繰越金のことで

す。二〇〇七年度の予算編成のときに前年度繰越金が六百万円足りなかったの、その分を緊急募金としてお願いしたわけです。ところで、この数年間、教区費、地区費共に下降気味です。ということは小教区の維持費が少なくなっているという現実があるわけです。維持費の70%を小教区

方とのより親密な関係を紹介して下さっています。奥村一郎神父様は「祈り」という本の中で日々の祈りは丁度、竹の節のようなもの、或いは呼吸のようなものだと指摘されています。これが無くなれば、いとも簡単に倒れてしまうと言われます。祈りの豊さを私たちは思い出す必要があると思います。

1 リーダーによるまとめ。内容についての質問やコメントが出されます。2 祈り(自分を神の前に置き、振り返る。10〜15分。サダナの祈りによる) 今日の日、何がありませんか?今まで、あなたは「祈る」ことを通して、わたしを導いて下さいました。わたしが歩む人生の旅路には多くの困難があります。あなたの支えがあれば、今のわたしはあ

りません。あなたの支えなしでは多くの困難に立ち向かうことはできません。目の前には自分の必要性にのみ心は向っていましたが、あなたはそれをわたしを在るがまま受け止めてくださっていたことを感謝いたします。あなたはわたしの魂をあなた自身に向けて創って下さいました。それゆえ、わたしの魂はあなたの許に行くまで安らぐことはありません。わたしの「キリスト者としての旅路」があなたとの深い一致のうちに歩む旅でありますように。わたしの祈りがあなた御自身の思いと一つでありますように。

※ 次回は入来教会で七月十九日(日)午後二時より行います。

で小教区の信徒財務委員の方々は努力して下さい、教会維持費の納入者の増加や維持費の義務は所帯の一つではなく、収入のある人全員であることなどを啓蒙して下さい。それでも現状は厳しいです。「鹿兒島教区財政正常化計画書」は教区報三月号の一面に掲載されています。今一度ご確認下さい。

今回は三十二年を経た計画書のシステムを、教区の体制の変化に基づく現状から考察を加えてみたいと思えます。

歴史ある会を未来へ

奄美カトリック女性連盟総会

奄美カトリック女性連盟では六月七日(日)、「いのち―輝くいのちをみつめて―」をテーマに古田町教会で第三十一回目の総会を開いた。出席者は七つの小教区からの百八十人。

開会に先立ち同連盟顧問の小隈憲士神父は「この連盟は教区の中で貴重な存在。大島だけの活動に留まることなく、日本カトリック女性団体連盟と連携しながら奄美から情報発信ができるよう頑張つて欲しい」と挨拶した。またこの日の総会に合わせて開かれた講演会には押川那覇司教が講師として招かれ「いやし



五月三十一日(日) 聖霊に奉獻されている芦花部教会(大熊小教区)では、「聖霊降臨祭」と「献堂八十周年」の記念ミサと祝賀会を開いた。

聖霊降臨祭と献堂八十年を祝う

大熊小教区の芦花部教会

この教会は奄美の教会の中で戦前の姿をほぼ原形のまま残している由緒ある唯一の教会。教会では少子・高齢化の影響で信徒数は減少。この日の式典は、小教区内の大熊・浦上教会の信徒の協力で盛大に行うことができた。ミサを司式したのは約四十年前に主任司

祭だった柳本繁春神父(古田町教会)。

ミサ後の祝賀会では集落の住人で唄者の夫婦が島唄を披露、最後は六調踊りで締めくくられた。信徒会長の竹田範義さんは「信徒の高齢化や信徒数の減少でこのような集いを開くのはこれが最後だろう」と語っていた。(報告/平 三國)

浦上教会でルルド祭

大熊小教区(アン神父)の浦上教会で五月二十四



チャイルドガーデニング 加世田聖母幼稚園

六月、加世田聖母幼稚園が「チャイルド・ガーデニング」を披露した。子どもにとつて広い運動場(築山があり、樹木が育つ)は、伸び伸びと遊びを發展させる場所。そこに美しい花々を育て、それを愛でることのできるスペースがあったらどんなにか子どもたちが喜ぶだろう。そんな思いをスクールバスの運転手さんと語り合ったところ、「やつてみましょう」の一言、すぐに竹製のついでが完成。そしてテーブルが椅子がと次々と届けられた。おまけに「よかったらこれを」とコウテイダリアの植木鉢。今朝はまた向日葵の苗までが「不思議!新しいこのスペースは子どもたちの楽しみみの場。そして大人顔負けの会話まで聞かせてくれる場となった。地域の人々に感謝したい。(Sr. H)

7月の会と催し

- 1日(水) 福者岐部カスイと百八十七殉教者
- 3日(金) 聖トマ使徒
- 5日(日) 年間第十四主日
- 6日(月) 司祭評議会・教区本部・10時
- 9日(木) 竹山昭神父叙階記念日(一九六七年)
- 12日(日) 年間第十五主日
- 14日(火) 村田源次神父命日(二〇〇七年)
- 19日(日) 年間第十六主日
- 20日(月) レデンプトル会例会
- 21日(火) ユゼビウス神父命日(一九七九年)
- 22日(水) 木村敏彦神父命日(二〇〇八年)
- 23日(木) ティエン神父叙階記念日(二〇〇六年)
- 24日(金) カトリック幼稚園教師研修会・霧島・25日
- 25日(土) 聖ヤコブ使徒
- ▼福崎英雄神父霊名
- 26日(日) 年間第十七主日
- 28日(火) 松田清四朗神父叙階記念日(一九七四年)
- 31日(金) ハヌス神父叙階記念日(一九五五年)

「短信」

▼ザビエルで堅信式

聖霊降臨の祭日の五月三十一日、ザビエル教会で堅信式があり十四人がその恵みに浴した。

▼草牟田墓地清掃始まる

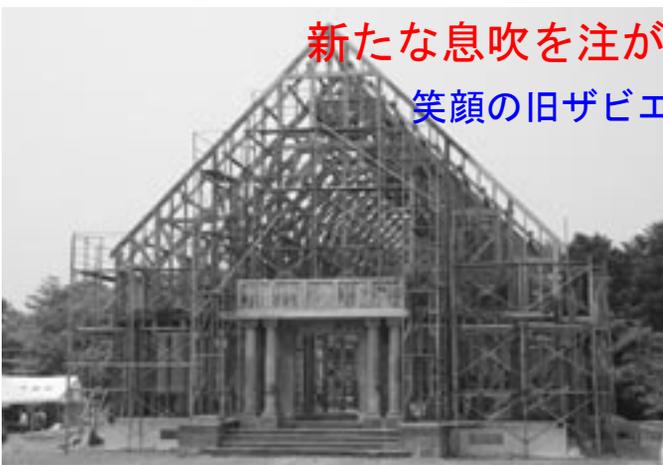
五月三十一日(日)午後、鹿児島市草牟田の市営墓地の「カトリック墓地跡」に

壮年を中心約四十人の信者が集まった。目的は、幽霊墓地と呼ばれた同墓地跡の整備と清掃。参加者たちは十一月にミサができる雰囲気作りを目標に定期的作業に取り組んでいく。

▼日本カトリック女性団体

連盟は六月七日、いのちを守る運動基金から奄美のNPO法人「ゆずり葉の郷」へ支援金を贈った。

新たな息吹を注がれて上棟式 笑顔の旧ザビエル聖堂



宗像市の福岡黙想の家(御受難修道会)で再生工事が進められていた旧ザビエル聖堂

鹿児島での働きを終えて解体されて以来寂しそうな旧ザビエル聖堂だったが、この

地で土田充義さん(NPO法人文化財工学研究室)らによって新たな息吹を吹き込まれ、新しい働きの場を見つけて嬉しそうだった。

信仰の島「五島列島」を旅して

浦上教会 平 三國

この度、信徒たちの望みだったキリシタン末裔の島「五島列島信仰の旅」が実現しました。私は旅行を企画し同行して下さった小隈憲士神父(大島地区長)様に誘われて参加しました。旅の日程は五月九日から十二日までの三泊四日で、参加者は総勢十二人でした。飛行機を利用したので早く楽な旅でした。



はじめは福江島の巡礼と観光でした。島の西端の大瀬崎展望所で雄大な東シナ海を眺め、その後井持浦教会へ。そこでは日本最初のルルド「井持浦ルルド」で巡礼者一同聖母とともにロザリオ一連をささげました。翌日は昨年、献堂百年を記念した堂崎天主堂を訪ねました。聖堂内は現在キリシタン資料館になっていて多くの資料が展示されています。展示品の中には奄美大島でも宣教されたドミニコ中村長八神父とヨゼフ・マルマン神父の写真があり、五島と奄美の深い縁を感じ懐かしく思いました。夜は小隈神父様が五島のお母さんと慕う赤尾文字(故ノルベルト赤尾孝信神父様の母上)さん宅で巡礼者全員と浦頭教会の信徒さ

らとの会食となりました。次の日はジェットフォイルで上五島へ渡り六カ所の教会を巡礼しました。特に頭ヶ島教会は、我が国の教会建築の発展に優れた功績を残した鉄川与助氏の設計・施行による西日本では唯一という珍しい切石積の石造教会で立派でした。また近くのキリシタン墓地は墓石の空間が花で埋め尽くされ、とてもきれいでした。それから鯛の浦教会のルルドでもロザリオ一連をささげました。その後は奈良尾

みことばシリーズ②

触れるとは「聞くこと」①

教区助祭 四條 淳也

主日のミサの中で聖書朗読者が聖書を読んでいる時、ほとんどの方が、手元の「聖書と典札」の朗読箇所を目で追いかけている。ページが替わると一斉にページをめくる音がする。

鹿兒島 前田 儀子

鹿兒島 春山マリ子

純心学園 川上 和

大 口 森 博伸

ひまわりの花

港からジェットフォイルで長崎港へと渡りホテルへ行きました。最後の日は午前中は長崎市内で自由行動でしたので、九人は日本二十六聖人記念館と西坂公園内の二十六聖人記念碑を訪ね聖人達の遺徳を偲び、記念撮影をし、帰路につきました。五島のキリシタンの歴史は四百五十年あり、多くの殉教者を輩出し、信仰の重みを偲ぶ巡礼となりました。(写真は大曾教会で)

その後、朗読者に間違いをそれとなく指摘したりする。みことばに触れるとは、聖書を読むだけで良いのだろうか。聴くことは必要なのだろうか。楽しい食事の席で、父親が、昔のことを、話し始めたが、皆は「また同じことを」と、息子や、娘たちが遮って、自分のことを話し始めることがよくある。義父と出会う時も無くの頃、一緒に食事をして、晩酌の頃になると気分が良くなると、昔のことを話し始めた。皆は「また、同じ事を」と言って一人、また一人と席を立って義父と僕だけになってしまった。僕にとっては初めての話であり、身を乗り出して聞き出した。このように、日常生活でも、自分が話すよりも、聞くことは難しい。同じ話を何度も聴くことはなおさらである。

どこでも見られるミサの風景である。朗読者が読んでいる箇所を目で追いかけている。熱心な方は、読み違いがあつたら、丁寧にミサ

の神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。」(申命記六・4-9)

「更に主は言われた。『人の子よ、わたしがあなたに語るすべての言葉を心におさめ、耳に入れておきなさい。』預言者は人々に語る前にまず、みずから神の言葉を真剣に聞く者でなければならぬ。」(エゼキエル三・10)

「シエマー(聞け)イスラエル」で有名な箇所は、「聞け、イスラエルよ。我

らに、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。」(申命記六・4-9)

「更に主は言われた。『人の子よ、わたしがあなたに語るすべての言葉を心におさめ、耳に入れておきなさい。』預言者は人々に語る前にまず、みずから神の言葉を真剣に聞く者でなければならぬ。」(エゼキエル三・10)

「シエマー(聞け)イスラエル」で有名な箇所は、「聞け、イスラエルよ。我

らに、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。」(申命記六・4-9)

「更に主は言われた。『人の子よ、わたしがあなたに語るすべての言葉を心におさめ、耳に入れておきなさい。』預言者は人々に語る前にまず、みずから神の言葉を真剣に聞く者でなければならぬ。」(エゼキエル三・10)

「シエマー(聞け)イスラエル」で有名な箇所は、「聞け、イスラエルよ。我

文芸

国分政 ノブ子

ロザリオの旅はローマへ柿若葉

鹿兒島 徳永ノブ子

轉りも主に導かれすこやかに

純心学園 山頭 信子

パウロ年ロザリオつなぐ地図の上

純心学園 川上 和

五月晴れ九重つり橋人の波

鹿兒島 春山マリ子

雨に傘空より落ちる恵み粒

短歌

朝六時半湯気立ては始める電気釜孫の弁当をつくる此頃

夕陽落ち真つ赤に沈む大輪の花と成りつつ祈りと成って

万緑のアラカンツアーなごやかに歓声あがる大阿蘇の宿

惜別のうたを手向けて夏三度君亡き里のひまわりの花

純心学園 川上 和

大 口 森 博伸

ひまわりの花

+KABAYAN SEKSIYON+

"Mga May-Kabalintunaanang Katangian ng Pananampalataya"

Ipinapakita sa atin ng Pananampalatayang Kristiyanang ilang kabalintunang tumutulong sa atin upang maunawaan ang masalimuot na katunayang ito.

A. Tiyak Subalit May Kalabuan-

Ang una ay ang Pananampalataya ay parehong tiyak subalit may kalabuan. Sa karaniwang gamit tinutukoy natin ang "paggamit sa mga bagay-bagay sa pamamagitan ng pananampalataya" kapag hindi tayo nakatitiyak. Nabubuhay tayo sa isang makamundong panahon na kung saan ang "maging tiyak" ay nangangahulugan ng kakayahang patunayan ito sa pamamagitan ng eksperimento at "makaagham" na paraan. Subalit ito'y isang pangitaing makatuwiran. "Nabilog ang ating ulo" sa pamamagitan ng sarili nating gawain: ang agham at teknolohiya ngayon. Bilang mga Pilipino, napapagtanto nating wala sa ating mga personal na mahahalagang pagpapasya maging sa ating mga pangunahing adhikain at pananaw sa buhay, kalayaan, pag-ibig, atbp. Ang maaaring "patunayan" ng mga eksperimento ng agham. Ang ating pamilya, mga kaibigan natin, ang ating sambayanan, pati ating bokasyon sa buhay ay nakabatay lahat sa pananaw, inspirasyon at lakas na tinatawag nating "pananampalataya." Ito ang "pinakatiyak" sa lahat ng ating nalalaman sapagkat ito ang saligan na siyang pinagtatayuan ng ating buhay. Ngunit paano tayo nakatitiyak sa "pananampalatayang-saligang" ito? Hindi maaaring manggaling sa ating sarili o sa kaninunang lalaki o babae ang tiyak na saligang ito. Hindi kailanman ito sisibol mula sa ilang makatuwirang kaisipan na nag-uudyok sa ating maniwalang. Kinakailangan nakabantay ang lahat ng tao sa isang hindi matitinag na saligan. Ang mismong Salita ng Diyos lamang ang maaaring makapagbigay ng gayong saligan. Tiyak ang pananampalataya sapagkat nakabatay ito sa Diyos na nagpapakilala ng Kanyang Sarili sa katauhan ni Jesu-Kristong kapiling natin sa Kanyang Espiritu. Tiyak tayo sa ating Pananampalataya sapagkat ito ay ating personal na pagkilalang matatag at mapagmahal na batay sa mga kapani-paniwalang tanda ng Diyos na naghahayag ng Kanyang Sarili sa pamamagitan ni Jesu-Kristo, at kapiling natin sa Simbahan sa pamamagitan ng salita, paghilingkod, pagsasama-sama at Sakramento.